

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『未来を作る学びと税金』

町田市立木曽中学校 3学年 小森 和

私は今年、受験生だ。たまに「何のために勉強をしているのだろう」と思うことがある。小学生の頃、勉強ができるのは幸せだと言われたことがあった。当時の私は、勉強に幸せを見いだすことはできなかった。

私は昨年、町田市中学校科学教育センターに参加した。これは町田市の取り組みの一つで、中学二年生が市内の中学校で燃料電池や蛙の解剖などの講座を受けるものだ。なかでも卵を落とす実験が心に残っている。三階から落としても割れないようにケント紙とセロハンテープのみで守る。私たちの班は卵を宙吊りにして力を伝えないうようにしたが、結果は失敗だった。それでも家に帰ってからもう一度やるほど、楽しい実験だった。

その日、最初の講座で緊張していた私は、周りの人の熱量にとても驚いた。しかし途中からは、皆が望んで参加した人たちだとよく伝わってきて嬉しくなったのを覚えている。科学センターを通じて、勉強は自らむかえばとても楽しいと気付くことができた。

センターに興味を持ったきっかけは参加が無料だったことだ。税金について考える中でふとその財源を知りたくなり調べた。町田市の教育費の中の「教育センター費」の一部として税金が使われている

るそうだ。中学生向けには約六十万円もの税金が使われていることに私は愕然とした。単純に計算しても一人二万円ほどかかっていることになる。もし有料だったら、私は参加できなかったらう。

今まで税金や国の財政について興味を持ったことはなかった。しかし受験勉強をする中で塾の費用などを知ると、学校で毎日六時間も無料で授業を受けられることは決して当たり前ではないと思うようになった。そして今回、具体的に私たちがどれだけ恩恵を受けているのか知ったことで、驚くとともに「勉強はやらなければいけないこと」とどこかで思っていた自分が恥ずかしくなった。

教育などに使われる「文教及び科学振興費」は五兆四七一六億円。私が一生かけて働こうが届くはずもない大金が一年で使われている。税金によって支えられているものを、個人が全て負担することは不可能だと思う。だからこそ払うことばかりに意識を向けず、本来の税の目的を皆で考えることが必要だ。十分に学習環境が整っていない国や地域もある。日本も少子高齢化が進めば歳入が減って学習に割く税金が減ってしまうかもしれない。私たちに何ができるのか、未来のために学び、つないでいくことも非常に大切だと思う。知りたいことを、知れること。考えて、確かめて、また考えること。学ぶことはとても幸せなことだ。今なら身にしてみ分かる。それを支えてくれているのは、周りの人と、税金だ。私も税金を納める側として、次世代の学びを応援できる人になりたい。そして、感謝の心を持って精一杯受験勉強に取り組みうと思う。